

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・
ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

(推進校報告)

岩手県教育委員会事務局
保健体育課

目次

1 盛岡市立仙北小学校	1
2 盛岡市立山王小学校	3
3 北上市立黒沢尻西小学校	7
4 釜石市立鶉住居小学校	9
5 宮古市立花輪小学校	13
6 奥州市立東水沢中学校	15
7 二戸市立金田一中学校	17

【様式3】

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	仙北小学校 5・6年生 236名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの価値を、オリンピック・パラリンピアンから直接学ぶことで、児童が深く理解することができるようにするとともに、スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）について理解できるようにする。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックの歴史や意義を知り、東京オリンピック2020について振り返る。 ・テコンドーを紹介し、山田選手のこれまでの活躍について知る。 <p>(2) オリンピック・パラリンピック講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山田選手の講演 ・デモンストレーション ・質疑応答 ・実技 ・感想発表 <p>(3) ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を書き、今後の生活に生かす。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を通して、オリンピックの3つの価値（卓越・友情・敬意/尊重）、パラリンピックの4つの価値（勇気・決意・平等・インスピレーション）に触れ、これらの価値を深く知ることができた。 ・山田選手のプロの技に触れ、本物の迫力を体験し、テコンドーのすばらしさに気付くことができた。 ・山田選手のお話を聞き、夢に向かって努力し続ける姿勢を学ぶことができた。 ・夢に向かって努力する過程で、困難に打ち勝つためにどのように気持ちを切り替えたのかを知り、自分の人生と重ね合わせて考えることができた。 ・今の自分があるのは、家族や友達など周りの人たちの支えがあることに気付き、感謝の気持ちを強くもつようになった。 ・結果が全てではなく、夢に向かって努力することが大切なのだということに気付き、あきらめない心を大切に努力し続けようという思いをもった。    
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は、講演会の前にパラスポーツであるボッチャを体験し、オリンピック・パラリンピックについて関心をもち、共生社会の在り方について考えを深めてから本講演を聞くことができた。 ・6年生は、外国語「What sports do you like?」と関連させ、オリンピックへの興味関心をもたせることができた。 ・本校独自の取り組みである「すすかけの夢プロジェクト」（オリパラ教育、キャリア教育、復興教育）に本講演を位置付け、山田選手の体験やエピソードを通して、自分自身を見つめ、自らの生き方を考えるきっかけとすることができた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や学校行事と関連させたオリパラ教育の位置づけ。 ・オリパラ教育推進のための地域との連携。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の取り組みである「すすかけの夢プロジェクト」にオリパラ教育を位置付け、スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）について理解を深めていきたい。

【様式3】

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	盛岡市立山王小学校 第4・5・6学年 合計76名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (道徳・総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (特別活動《昼休み》)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	障がいのある人は社会の中のどこに障壁を感じ、それらをどのように考えたり、創意工夫を凝らしたりし、乗り越えてきたかを知ること。また、誰もが平等感をもち競い合えるパラリンピック種目「ボッチャ」を学び、体験し、異年齢集団で助け合い活動すること。これらを通し、児童が自分と異なる個性や多様性を認め、皆が互いのことを考え、互いの力を存分に発揮できるよう助け、支えようとする態度を育てる。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック・パラリンピックについて、視聴・応援をした感想を交流し合う。 ・選手たちの様子（特にパラリンピック）を映像で視聴した感想や、選手たちの思いを想像し交流する。 ・パラリンピアン（テコンドー田中光哉選手）を講師とし、講話をお聞きする。（ご自身が取り組んでいるスポーツを通して感じるやり甲斐。社会にある障壁とを感じるものを、どのような思い・工夫・努力で乗り越えてきたのか。） ・パラリンピック種目「ボッチャ」のルール学習と、田中選手とのボッチャ体験。 ・パラリンピアンとの直接の触れ合いやお聞きした話から、感じたこと・今後の生活に生かしたいことを振り返りにまとめる。 ・たてわり班遊びのねらい達成のために、遊びの内容や下学年への配慮、班長・高学年としての役割がどうあればよいか考える。 ・2日間、昼休みのたてわり班遊び「わくわくタイム」の時間に、班対抗の「ボッチャ大会」を開催する。 ・運動へ苦手意識をもつ児童や、学年が下の児童が楽しんで運動でき 

	<p>たり、活躍できたりしたことをチーム内で認め、称賛する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生以上は「ボッチャ大会」までの学習を振り返る。 ・教師が体育館に「ボッチャ」用のコート及び用具を常設し、児童がいつでも行えるよう環境を整える。また、児童会（体育委員会）がその管理や使用上の約束づくりをする。 <p>児童の遊びの選択肢に「ボッチャ」が加わり放課後や、雨天時で校庭が使用できない休み時間に、ボッチャを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も、オリンピック・パラリンピック教育を継続できるよう、年度内に3年生以上の総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、再編する。又、パラリンピアンに代わる地域の外部講師・組織とつながりをつくる。 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人への理解が深まった。「生活上の不便が多く大変」という印象が強かったが、田中選手の強さと柔軟さ、チャレンジ精神を直接お話や姿で伝えていただいたことにより、障がいのある方々のたくましさや前向きな考え方、そして「人は誰でも平等に自由に生きることができ、大きな可能性をもっていること」を教えていただいた。 ・パラリンピック（障がい者スポーツ）への関心の高まり。知らなかった競技を実際に体験したことで、その面白さに気づき、さらにパラスポーツを知ろうとする児童が増えた。 ・パラスポーツがあることで、健常者でない人たちもスポーツができる、その楽しさや喜びを味わうことができると知り、その存在意義を知ることができた。 ・「スポーツがもっている力」への認識が深まった。人はスポーツをきっかけにして、生き生きと目標をもって生きることや、自己を高めようと努力を重ねることができるのだと気付いた。 ・「ボッチャ」のもつよさに気付いた。年齢や技能の差、障がいの有無にかかわらず皆が平等に楽しめる。又、スポーツでありながら、頭を働かせてプレーする比重が大きいものである。運動が苦手な児童は、ボッチャなど親しみやすい運動もあることを知り、運動習慣をつける一助となった。 ・「ボッチャ」を通して学んだ異学年交流の楽しさと大切さ。上学年は、全員が活躍できるように、下学年への思いやりをもった配慮の仕方を、下学年は、みんなが楽しめるように工夫する上学年の在り方を、自然と学び合うことができた。又、清掃活動の他に、校内で学年が交じりかわることで、同じ山王小学校児童としての所属感をもつことにつながった。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の児童会にもともと位置付けられていた「たてわり班遊び」の活動の中に、異年齢集団でも取り組みやすい「ボッチャ」というパラスポーツ競技を取り入れたこと。 ・本校の児童数が、「ボッチャ」を行うチーム数や試合での出番の回数に適しているため、参加意欲を喚起できる全校での大会を設定したこと。 ・この事業を機会に、総合的な学習の時間の不足していた「福祉分野」の内容に厚みをもたせ、3年生以上の各学年のテーマに適したカリキュラムの再編を行い、そこにオリパラ教育を位置付けたこと。 ・この事業後も、児童らが「ボッチャ」に親しめるよう、体育館に常設のコートと用具を職員で設置・製作したこと。

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 「福祉に関する学習」を行う時期が市内の多くの学校で近くなり、「ボッチャ」の用具の借用や外部講師の派遣などが難しくなること。 • 無理なく、どのような形で「オリパラ教育」を現在あるカリキュラムの中に落とし込んでいくか、全校体制で考える必要があること。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • これまで行っていた第4学年の総合的な学習の時間の「福祉学習」に「オリパラ教育」を加え、盛岡市障がい者スポーツ協会と連携し、盛岡地域在住のパラスポーツ競技者を講師として招聘し、講義及びパラスポーツ体験を行う。「オリパラ教育」の中心学年とする。 • たてわり班活動で「全校ボッチャ大会」を企画・開催し、異学年交流をさらに活発化させる。 • 「ボッチャ」の用具を外部施設から借用する。同時に毎年少しずつ購入し、いつでも行えるよう環境を整えていく。

【様式3】

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	北上市立黒沢尻西小学校 4～6年 211名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (体育 総合 学活)</p> <p>② 行事名 (PTA 教育講演会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 (はばたき子ども広場「体育館で遊ぼう」)</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピアンによる講演を通して、オリンピック・パラリンピックの価値を直接学ぶことで、スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）について理解できるようにする。
5 取組内容	<p>1 オリンピック・パラリンピックについての理解（総合・学活）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの競技を知る。 ・「I'm POSSIBLE」を活用しての学習。 <p>2 パラリンピック競技に挑戦（体験活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ボッチャ」競技を知り、競技に慣れ親しむ。（体育） <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>3 オリンピアンとの交流・体験（総合・学活）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック テコンドー日本代表 山田美諭選手の講演・実技 <p>演題 「夢中になれるものをみつけよう」</p> 

	<p>・山田選手指導の下、体験活動 ・山田選手への質疑・感想発表</p>  <p>4 地域連携によるスポーツ交流 ○学年関係なく交流できるポッチャでのスポーツ交流 はばたき子ども広場（12月）</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○「ポッチャ」は誰にでも楽しめるスポーツであることを知り、ルールを確認しながらゲームを楽しむことができた。</p> <p>○事前学習を生かしながら体験することができた。簡単な試合形式で行えたため、けがをしていた児童も参加することができ、全員が笑顔で取り組むことができた。</p> <p>○直接オリンピックとふれあうことで、競技の素晴らしさだけでなく、山田選手の生き方を深く知ることができ、児童にとって貴重な体験となった。</p> <p>～感想～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美諭選手の生き方について感心したので、僕もまねして生きていきたいです。 ・まだまだ知らないルールなどがありそうなので、もっと調べて関心を高めたいです。 ・あきらめない心と夢中になれることをみつけるということが大切だということが心に残りました。  
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック教育全体計画を作成し、職員の共通理解の下、学年にあった指導で進めることができた。</p> <p>○事前学習を行うことで、講演内容をより確かに理解することができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○継続して取り組むために全体計画を見直し、より取り組みやすくなるように改善を図る。</p> <p>○「ポッチャ」については道具を借用する関係があり、学校行事や学年（学級）の時間割との調整が必要である。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○「キャリア教育」や「復興教育」を含め、各教科において継続的に学習する。</p> <p>○体育学習などでパラスポーツの実技体験を取り入れていきたい。</p>

【様式3】

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【Ⅲ・Ⅴ】
2 実施対象者	釜石市立鶴住居小学校 第6学年 24名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育・総合的な学習の時間)
4 目標 (ねらい)	パラリンピックの価値をパラリンピアンからの講演やふれあいから実感できるようにするとともに、スポーツへの興味・関心やスポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)について理解を深めることができるようにする。
5 取組内容	<p>【時間外/聖火リレーのトーチを見たり、触れたりする活動】</p> <p>◇7月中旬～下旬</p> <p>実際に東京オリンピックの聖火ランナーとして走った方からトーチをお借りし、教師作成の資料とともに見せながらオリンピックについて興味・関心をもたせた。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>いよいよ東京オリンピックが始まるね。楽しみ!</p> <p>トーチって意外に重いんだ! 持って走るの大変そう…。</p> <p>金色に光っている!</p> </div> </div> <p>【体育/ボッチャ体験】</p> <p>◇9月21日(火)</p> <p>パラスポーツの競技を体験することで、だれでも楽しめる奥深いスポーツであることを知るとともに障がい者と健常者、分け隔てなく生活することの大切さを感じ取らせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 200px;"> <p>誰でも気軽にできるスポーツだし、一緒に作戦を練ったり声を掛け合ったりできる楽しいスポーツだなあ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 200px;"> <p>座ってやると、難しいなあ…。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 200px;"> <p>どっちが近いかな? 障がいのある人もない人も一緒に楽しくできるね。</p> </div> </div>

【体育／ゴールボール体験】

◇9月22日（水）

パラスポーツの競技を体験することで、目の見えない状態で競技することの難しさや怖さを理解させるとともに、声をかけるなど相手の立場に立って生活することの大切さを感じ取らせる。



目が見えないって、怖い。音をよく聞いていないと…。



周りの人が声をかけてくれたから取れた！



投げるのも、ボールのコントロールが難しいなあ…。

【体育／車いすラグビー体験】

◇11月24日（水）

パラリンピアンのお話を聞いたり、パラスポーツをライブで見たり、体験したりすることを通してスポーツに対する興味関心を高めると共に、スポーツを通じて目標に向かってあきらめないことの大切さや共生社会を構築しようとする気持ちを育てる。

◎指導者・・・車いすラグビー日本代表 池崎 大輔 選手 島川 慎一 選手

① 講演【自身の生い立ちから競技を志すきっかけとなったことや思い、競技の魅力、子どもたちへのメッセージ等】

《池崎選手》

困難は一人では乗り越えられない。仲間を大切に。強い心と優しい心をもって、「ありがとう」といえる人、言ってもらえる人になってほしい。



《島川選手》

以前は諦めが早かったが、競技を始めて人生が変わった。みなさんには、いろいろなことに挑戦してほしい。

競技用の車いすは動かしやすいね！でも逆にコントロールが難しい…。

② 実技



タックルするとすごい音！衝撃もすごい！でも、楽しい！！！！



相手をじゃましたり、ぶつかったりして、パスをさせないようにするなど作戦を工夫できるね！





《児童の感想》

- ・はじめはこわいなあと思っていたけど、いつの間にか試合に夢中になっていました。目標を達成するためには、あきらめずにやり通すことを学びました。
- ・オリンピックもパラリンピックも両方応援しようと思います。選手のみなさんには頑張ってもらいたいです。
- ・ぶつかるときの音や衝撃がすごかったです。障がいがあっても一つの競技に一生懸命取り組んでいるのが素晴らしいと思いました。
- ・パスをもらってゴールまで運んでトライしたとき、とてもスカッとしました。自分のことはもちろん周り人のことも考えて行動することが大切だと教わりました。
- ・池崎選手や島川選手の話聞いて、どんなにつらいことがあってもあきらめないこと、目標を達成できるようにしっかり努力することを学びました。

【単元のまとめをする】

◇11月下旬～12月

- ・様々なパラスポーツを経験して学んだことを、ポスターとして表現し、掲示した。
- ・互いに学んだことを伝え合った。

6 主な成果

- 事前事後のアンケートから、パラリンピックへの興味関心、お年寄り・障がい者との交流への意欲、パラリンピックの意義や大切さの理解といった項目で肯定的意見が増え、障がい者スポーツへの理解と興味が高まった。
- パラリンピアン講演を通して、相手を大切にしたい気持ちや目標に向かってあきらめず努力する心について、学ぶことができた。
- 様々なパラスポーツを体験することを通して、障がいを持つ人も健常者も分け隔てなく楽しめるスポーツがあることを知ることができ、普段の生活の中でも、声を掛け合うことの大切さや相手意識をもって生活すること大切さを感じ取らせることができた。

7 実践において工夫した点（事業の特色）

- 導入において、東京2020のトーチを見たり、触れたりする活動を取り入れて、興味関心をもたせようとしたこと。
- だれとでもと触れ合う喜びや障がい者の苦勞、スポーツをすることの楽しさ等を様々なパラスポーツを体験することを通して学ぶことができるようにしたこと。
- 「ラグビーのまち釜石」に合わせて、パラスポーツの車いすラグビーの選手を講師として迎え、実技を行うことにより、自分たちが触れてきたラグビーと比較させながら、スポーツの楽しさや奥深さを体感させるようにしたこと。
- パラスポーツの車いすラグビーの選手の話聞くことにより、障がいをもつ人の思いに触れたり、あきらめないことの大切さ、目標に向かって努力することのすばらしさについて考えさせたりしたこと。
- スムーズに体験できるようにするために、事前指導でパラスポーツの調べ学習を行うようにしたこと、パラスポーツの価値に迫れるようにするために振り返りの時間をとったこと。

<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○パラリンピック後にパラリンピアンを講師として授業を行ったので、講師が忙しく細かく打ち合わせができぬまま、当日を迎えたこと。講師が臨機応援に講話をしてくださったり体験活動を進めてくださったりしたが、教師の指導が的確にできなかった。 ○個人のまとめを学級内で伝える方法ではなく、学んだことを下学年に発信する機会を設定すること。（命を大切にする集会や卒業の取り組みなどで、今回の総合で学んだこと（相手を大切にする、誰とでも分け隔てなく接すること、目標に向かってあきらめず努力すること等）を盛り込んで表現活動につなげていきたい。 ○車いすラグビーの選手をこうして迎えることができたので、ラグビーや児童が行っているタグラグビーと車いすラグビーを深く関連付けていくこと。 ○総合的な学習の時間だけでなく、教科・領域を関連させて、横断的に取り組んでいくこと。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○可能な限り車いすラグビーの方をお招きし、6年生の総合的な学習の時間の一つの柱として、取り組んできたい。 ○「I'm POSSIBLE」を活用する。 ○再度、ボッチャやゴールボールの用具をお借りして、体験する。 ○学んだことをまとめ、発信する場を設定する。

【様式3】

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【岩手県・宮古市】

1 実践テーマ	【I・V】
2 実施対象者	宮古市立花輪小学校 1～6年生 155名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（特別活動・体育科） ② 行事名（運動会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ）
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの価値をアスリートから直接学ぶことで、スポーツやオリンピック・パラリンピックの意義などを児童が深く理解できるようにすると共に、スポーツに対する興味・関心を向上させ、スポーツを楽しむ心を育成する。
5 取組内容	低学年（1・2年） ・レッドチャーム（岩手ビッグブルズチア）とのダンス教室 中学年（3・4年） ・岩手ビッグブルズの選手とのバスケット教室 高学年（5・6年） ・オリンピック（シドニー銀・銅メダリスト 中村真衣選手）講演会 ・パラリンピックについての学習（I'm possible と Who am I?を活用） ・オリンピックと関連した体育科の単元の構築 ・オリンピック・パラリンピック（教育）ムードを醸成する各種取組
6 主な成果	・発達段階に応じた内容でのアスリートとの学習により、スポーツに対する興味・関心を高めることができた。 ・オリンピックの講話から、オリンピックの価値について直接学ぶことができた（高学年） ・パラリンピックについての学習に取り組んだことで、パラリンピックの価値について理解を深めることができた。 ・体育科の学習では、オリンピックと関連させた単元を構想し、実施したことで、アスリートの身体能力や世界記録についてなど、体験的に学習することができた。 ・掲示等を工夫したことにより、オリンピック・パラリンピックについての理解を深めることができた。また、行事等を利用して、オリンピック・パラリンピック（教育）ムードを醸成する様々な取り組みを行ったことにより、オリ・パラ（教育）への校内の雰囲気が高めることができた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>・全学年（1～6年）でのオリンピック・パラリンピック教育の実践</p>  <p>講演・交流だけでなく、アスリートを身近に感じられるような時間の設定、退場の演出を行った。</p> <p>・パラリンピックについての学習（I'm possibleとWho am I?を活用）</p>  <p>I'm possibleとWho am I?を活用したパラリンピックについての学習を、5年生で実施した。聖火トーチを掲示し、スライドや映像を活用して授業を行った。</p> <p>・オリンピックと関連した体育科の単元の構築</p>  <p>走り高跳びの世界記録を提示し、その記録に学級で挑戦していく単元を構築し、実践した。実践の中で、アスリートの映像を活用し、動きのイメージをもたせた。</p> <p>・オリンピック・パラリンピック（教育）ムードを醸成する取組 【オリ・パラ・スポーツ関連の掲示と聖火リレートーチの活用】</p>  <p>校内に、オリ・パラ・スポーツ関連の掲示コーナーを設置し、クイズ等でオリ・パラに親しんだ。全校児童がトーチに触れ、また、運動会ではトーチを手にして選手宣誓するなど、行事の中にもオリ・パラ教育を積極的に取り入れた。</p> <p>・オリンピック・パラリンピック教育と合わせたキャリア教育、復興教育のねらいの達成 【発達段階に応じた振り返りと将来への見通し】</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>・発達段階に応じた本事業の活用方法の明確化</p> <p>・学校としてのパラリンピック教育の指導計画の作成</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>・継続可能な形でのオリンピック・パラリンピック教育の推進</p> <p>・地域・保護者を巻き込んだオリ・パラ教育の推進</p>

【様式3】

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【岩手県】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	東水沢中学校 3年生（男子65名 女子55名 計120名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) オリンピック・パラリンピックの意義を学び、夢やスポーツがもつ力について理解する。</p> <p>(2) 誰もが可能性をもっていることを理解し、挑戦することの意義について捉える。</p> <p>(3) 理想とする社会の在り方やその実現のために必要なことを理解し、これからの自分の生き方について考える。</p>
5 取組内容	<p>(1) 9月～10月…学級ごとの授業（1～2時間）</p> <p>① 「一緒に生活する準備をしよう」（車椅子の〇〇君と一緒に△△をする）</p> <p>② オリンピック・パラリンピックの意義とパラ競技の紹介 ※活用教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『I'm POSSIBLE』（授業用シート） ・NHK 「アニ×パラ～あなたのヒーローは誰ですか」 ・NHK 「our SPORTS!」～100コマ～ ・『Who I am』 <p>(2) 10月…学級ごとの体験的学習活動（2時間）</p> <p>① 「〇〇君と一緒にやろう!」（シッティングバレー）</p> <p>② 「音に集中!」（鈴入りバレーボールで1対1勝負）</p> <p>③ 「スポーツはみんなのもの」（ポッチャ）</p> <p>④ パラテコンドー阿渡健太さん 事前学習と質問事項の整理</p> <p>(3) 11月…講演会（2時間）</p> <p>『障がい者は特別な存在ではない・みんなと同じ一人の人間だ』</p> <p>※実技研修「テコンドー」</p> <p>※質問</p> <p>(4) 振り返り（1時間）</p> <p>『15歳が描く「共に生きる社会」～パラリンピアンとの出会いを通して～』</p>

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や実技指導を通してパラスポーツを楽しむとともに、パラスポーツを「障がいのある人がやるもの」と捉えるのではなく、「誰もが楽しむことができるように工夫されたスポーツ」として理解することができた。 ・障がいを誰にでもある「違い」と捉えて受け入れることや、人それぞれの「普通」を理解することの大切さに気づくことができた。 ・障がいに対する先入観でその人を見るのではなく、その人自身を知ることや「違い」を補い合う工夫をすることの大切さに気づくことができた。 ・夢や目標をもつこと、できないと決めつけずにやってみること、努力し工夫すること、失敗しても諦めずに挑戦することなど、これから自分の人生を歩むうえで大切にしたいことを生徒自身が感じることができた。 ・他者とのよりよい関係や誰もが住みやすい社会を築くために、実践していきたいことについて考えることができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」の年間指導計画に沿った学習の展開 ※全体テーマ『共に生きる』 1学年…地域を知り、その発展に取り組む人たちの存在を知る。 2学年…地域の産業や文化の発展を支える人たちに学び、自らの生き方を考える。 3学年…自他の命の大切さと、多様な人たちと共に生きていく社会の在り方について考え、発信する。 ・3年間の学びのつながり（人と出会い、人から学ぶ機会の設定） ・主体的に考え、実践する学び（体験的活動の充実） ・学びの振り返りと交流
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の年間指導計画に沿った学びの場の開拓と充実。 ・取り組みプランの再検討。 ・「共生社会」の実現に向けた実践活動の機会の設定。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸機関の事業を活用させていただくとともに、教科との連携、また地域の人材活用等も検討しながら、共生社会の実現と実践力のある生徒の育成を目指して学習を継続していく予定。

【様式3】

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

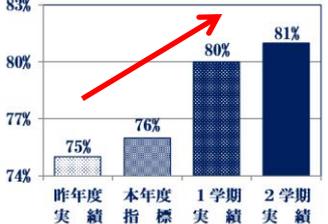
事業実施報告書

道府県・政令市名

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

【岩手県】

1 実践テーマ	【Ⅲ】
2 実施対象者	二戸市立金田一中学校 第1学年31名、第2学年40名、第3学年50名、合計121名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>①教科名（保健体育、道徳）</p> <p>②行事名（文化祭）</p> <p>③その他（総合的な学習の時間）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①イベント名（全国中学校総合文化祭、二戸地区中学校総合文化祭）</p> <p>②その他（市政策推進課と連携した国際交流事業、市広報紙取材協力等）</p>
4 目標 (ねらい)	学校教育目標「進んで学び、出藍の誉れある道を求める実践者の育成」に向けて、保健体育科授業の充実を図るとともに、カリキュラム・マネジメントの視点から、教科横断的な学習を充実させ、学習効果の最大化を図って、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成することを目指す。
5 取組内容	<p>(1) 学校における活動</p> <p>ア 保健体育授業の充実</p> <p>①全ての単元における「共生」に係る指導と評価</p> <p>②東京2020オリンピック聖火リレーのライブ配信の視聴（6月）</p> <p>③パラリンピック競技の体験（6月）</p> <p>④授業と連動した家庭学習の取組（7・8月） 東京2020オリンピック観戦後の感想等をまとめるレポート</p> <p>⑤東京2020パラリンピック・ガボン共和国選手団とのオンライン交流会（9月）</p> <p>⑥東京2020オリンピック聖火リレー聖火ランナーユニフォーム及びトーチ展示（9月）</p> <p>⑦オリンピックを招聘しての講演会（11月） 事前：講師に関する調べ学習と校内掲示 講師：シドニー2000オリンピック100m背泳ぎ銀メダリスト中村真衣氏 内容：辛いことを乗り越え、諦めず、努力し続けることの大切さ</p> <p>⑧パラリンピアンを招聘しての講演会（12月） 事前：講師に関する調べ学習と校内掲示 講師：テコンドー日本代表阿渡健太氏・東京2020パラリンピックテコンドー日本代表太田渉子氏 内容：工夫すること、諦めずやってみること、挑戦することの大切さ</p> <p>⑨授業と連動した家庭学習の取組（12・1月）</p>

	<p>希望郷いわて元気・体力アップ 60 運動の「チャレンジカード」を使用した運動実践レポート</p> <p>イ 保健体育科授業以外の取組</p> <p>①特別の教科「道徳」における「共生」「国際理解」「国際交流」等を題材とした学習の積み重ね</p> <p>②総合的な学習の時間における「共生」に係る調べ学習と創作演劇（文化祭等で発表）</p> <p>③オリンピック・パラリンピックの関連図書の整備と校内展示</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①創作演劇の発表 全国中学校総合文化祭（8月） 二戸地区中学校総合文化祭（11月）</p> <p>スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築のほか、かけがえのない生命や自他の存在の大切さ等、人間としての生き方についての自覚を深めさせる創作演劇</p> <p>②東京 2020 オリンピック・パラリンピック「復興ありがとうホストタウン」企画としてガボン共和国への応援メッセージ撮影（7月）</p> <p>③市広報紙取材協力等による情報発信（1月）</p>											
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 違いを認めようとしたり、大切にしようとしたりする生徒の姿の出現</p> <p>①保健体育科授業において、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、一人一人の違いを認めようとしたり、大切にしようとしたりするなど、様々な教育活動において、誰もが人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合う生徒の姿が多く見られるようになる。</p> <p>②県学習定着度状況調査において「間違いを認める雰囲気作り」の「学級には、授業中の先生からの質問や、教科書の問題の答えなどについて、間違っても認め合える雰囲気がありますか」については、本校の積極肯定回答する生徒の割合が60%で、本県47%より13P上回り、県比指数は127.7となる。</p> <p>(2) オリンピック・パラリンピック等に関する理解の深まり</p> <p>①私はあまり努力し続けることが苦手だけれど、中村さんのお話を聞いて、少しずつ頑張ってみようと思いました。（オリンピックを招聘しての講演会の振り返り）</p> <p>②実際に体験してみても難しさを知りました。体に不自由がある人は、スポーツを勝利へと導く技術をもっていてすごいと思いました。（パラリンピック競技の体験の振り返り）</p> <p>(3) 運動やスポーツへの興味・関心の高まりと運動習慣の形成</p> <p>①まなびフェスト（学校・家庭・地域で共有する目標）において、「運動すること（体を動かすこと）を意識している生徒」（肯定的な回答をする割合）について、全ての学年で本年度の指標を上回る。</p> <p>②同じくまなびフェストにおいて、「徒歩や自転車で通学する生徒」（肯定的な回答をする割合）について、昨年度の実績や本年度の指標を上回り、学期が進む毎に上昇する。</p>	 <table border="1"> <caption>運動すること（体を動かすこと）を意識している生徒の割合</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昨年度実績</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>本年度指標</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>1学期実績</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>2学期実績</td> <td>81%</td> </tr> </tbody> </table>	時期	割合	昨年度実績	75%	本年度指標	76%	1学期実績	80%	2学期実績	81%
時期	割合											
昨年度実績	75%											
本年度指標	76%											
1学期実績	80%											
2学期実績	81%											
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>(1) 保健体育科授業の充実</p> <p>全ての単元における「共生」等の資質・能力のバランスのよい指導と評価と授業と連動した家庭学習の取組</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進</p> <p>学校教育目標の実現と資質・能力の育成を目指すカリキュラム・マネジメントの推進</p>											
<p>8主な課題等</p>	<p>オリンピック・パラリンピック教育の推進のために必要な人的・物的な体制の整備やさらなる組織的・計画的な教育活動の質の向上等</p>											
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>体育理論における ICT を活用した「運動やスポーツの多様性」「文化としてのスポーツの意義」等の教材開発や保護者等とのパラリンピック競技の体験等</p>											